Uda City

第2部

基本構想

Master Plan

第1章　まちづくりの基本方針

第1章　まちづくりの基本方針

第1節　まちづくりの基本理念

本市の地域特性や課題等をふまえ、新しいまちづくりの基本理念を以下のように掲げ、今後のまちづくりのすべての分野において、基調として尊重し、各種施策を展開します。

1．持続可能な環境保全のまちづくり

本市は、大和高原とよばれる高原地帯に位置しており、河川、山、大地など豊かな自然に恵まれたまちです。この豊かな自然を将来にわたって維持するとともに、自然と共存し、環境保全に重点をおいた持続可能なまちづくりを行うことが、地域経済や社会の発展につながります。今後、本市の資源を最大限に活用し、自然との共生により快適で活力のあるまちをめざします。

2．新しい時代の協働のまちづくり

まちづくりの主役は地域を支える市民一人ひとりであり、まちづくりは市民と行政など多様な主体が協働して進めることが重要です。また、市民ニーズが多様化・高度化するなかで、ＮＰＯやボランティアなどの活動も活発になりつつあります。今後、住民自治に資するこうした市民活動を支援し、ＮＰＯやボランティア、企業、市民、行政等の役割分担を明確にし、協働による柔軟なまちづくりを展開していきます。

3．地域力※（宇陀力）による「安全・安心」なまちづくり

市民一人ひとりが豊かな生活を送るために、本市においては、大規模災害や大雨などによる水害に対する安全・安心の確保のみならず、防犯、交通、環境保全などのまちづくり全体、また、子育て、健康、食生活、就労などの身近な生活課題から安全・安心なまちづくりを推進します。

また、少子化や核家族化の進展、価値観の多様化などにより、子どもを取り巻く社会的環境は大きく変化しています。さらに、依然としていじめや不登校は減少していない現状のなか、人権、教育など、豊かな人間性を育む教育環境においても、安全・安心な取り組みが必要となっています。今後、まちづくりに関するあらゆる分野において、「安全・安心」を基本的な価値観として施策の推進を図ります。

4．歴史や文化を活かしたまちづくり

本市には、古来より伝承されてきた貴重な地域の歴史や文化があります。それらの歴史文化遺産を大切にし、学び、ふれあうことにより、地域に誇りと自信を持ち、地域を愛する心を育むとともに、地域の資源を活用した集客交流や地域の産業を活性化することにより活気あふれるまちづくりをめざします。

●**地域力**…阪神淡路大震災時に広まった概念で、行政だけでは地域の問題解決は不可能であるという認識に立ち、自立的かつその他の主体と協働しながら問題解決を図っていくこと。従来、宇陀には地域コミュニティの地域力（宇陀力）が残っており、今後はその活用が期待されています。

第２節　宇陀市の将来像

１．将来像

まちづくりの主な課題

- 人口減少社会及び少子高齢化への対応
- 都市拠点の創造とネットワーク化の推進
- 地域資源を活用した魅力的なまちづくり
- 地域力の再生、市民主体のまちづくりへの対応
- 教育、男女共同参画など人権文化への取組み
- 環境保全への取組み
- 災害・防犯に対応した安全・安心の確保
- 若者を中心とした定住化の促進　など

人口減少時代だからこそ、まちづくりの視点を「量から質」へと変化させていくことが重要になっています。21世紀は環境と共生していく時代であり、「スローライフ」に代表されるように、心の豊かさやゆとりある生活が志向され、また、さまざまな価値観に基づく幸せを求める動きが重要になってきます。

今後のまちづくりの考え方

- 定住人口の減少緩和、交流人口の増加
- 誰もが安心して住み続けられる地域づくり
- 教育、男女共同参画など人権文化のまちづくり
- 豊かな自然環境や歴史文化など、地域資源を活かした魅力的なまちづくりの展開
- 持続可能な地域産業・観光の振興
- 複合化・多様化した地域課題を市民・行政・ボランティア等の協働で取り組む姿勢　など

これらの考え方を実現するためには、地域や分野、各層を越えたまちづくりを進めていかなければなりません。また、「選択と集中」による施策の重点化を図り、「あるもの探し」による既存ストックの有効活用などの効率化を図る取り組みも必要です。

旧町村の将来像

旧大宇陀町：かぎろひ　ーライブタウンおおうだー
旧菟田野町：ぬくもりのあるもっと元気なまち菟田野
旧榛原町　：文化の花開き、やさしい風吹く　「高原文化のまち」ーはいばら
旧室生村　：自然と文化が調和し、自然とひとが共生するこころ豊かに暮らせる村づくり

新市まちづくり計画の将来像

水と緑・歴史と文化が共生する ふれあい豊かなまち
～みんなでつくる 夢ある宇陀～

旧町村の将来像や新市まちづくり計画の将来像をふまえ、新たな総合計画では次頁に掲げる将来像を設定します。

総合計画の将来像コンセプト

宇陀市の「宇」の語源には、家・建物という意味がありますが、まちづくりも大きな意味から家づくりと言えるのではないでしょうか。宇陀市は市町村合併により、“新しい家族（市民）”ができ、“新たな家づくり”がスタートしました。

家というものには、喜びと悲しみ、出会いと別れなど、家族（市民）のさまざまな思い出や歴史・文化が刻まれています。時代やかたちが変わっても、本来、家というものは、心のよりどころであり、やすらぎを求めて、帰りたい、癒しの場所であるはずです。

さらに、持続的に活気がある家を築くためには、やすらぎ（安全・安心）、支え合い（協働）、にぎわい（交流）、やりくり（節約・工夫）など、健やかな営みがなければなりません。

自然や歴史・文化など、豊かな地域資源に恵まれた宇陀市において、この地域資源を活かしながら、かけがえのない自然環境（エコ）を市民一人ひとりが大切に考えることが重要です。そうすることで、今後、宇陀市に住む市民や訪れるすべての人々に、やさしさと心からのもてなしを提供し、地域力を活用した活気ある循環型社会の構築と、新しい付加価値を創造していけると考えます。

そのために、宇陀市全体を「ぬくもりの家」と位置づけ、地域資源を活用した個性のある持続可能なまちづくりをめざして、以下の将来像を設定し、まちづくりを進めていきます。

総合計画の将来像

～ 協働と交流で築く　ぬくもりの家 ～

『自然と共生し、歴史・文化が育む ふれあいと活力あるまち 宇陀市』

２．行政経営の方向性

行政運営から行政経営へ

地方分権、少子・高齢化、地域産業の構造変化、価値観の多様化など、社会・経済・市民意識等が大きく変化するなかで、まちづくりにおけるさまざまな分野において、限られた財源を有効に活用し、今まで以上に効率的な行政運営をするために、政策・施策・事務事業の適正な評価が求められています。

このような状況下において、健全な財政状態をできる限り維持していくためには、より積極的な行財政改革が必要となります。そのため、現在、行政が行うべき事業の見極めをするとともに、市民ニーズに的確に対応した施策を実施する「行政経営」の視点が重要となっています。

行政改革からの視点

- 事務・事業評価の導入
- 定員の適正化と給与の適正化
- 組織の見直し及び機構の再編
- 現行計画の見直し
- 住民の協働と行政サービスの向上
- 職員の意識改革

宇陀市における行政経営のキーワード

- 自主・自立
- 危機管理
- 財政の健全化
- 成果志向
- 意識改革
- 市民協働

これらの行政改革の視点や行政経営のキーワードに基づき、
以下の方向性をめざして行政経営を推進します。

行政経営の方向性

自立した行財政と市民の視点に立った、
成果がみえるまちづくり

3．目標フレーム

まちづくりにおいては、都市基盤整備や雇用の創出、教育の提供などの面で「定住人口」が計画の基礎的資料となり、まちの成長を示す指標でもあります。しかし、近年、著しい出生率の低下などから、ほとんどの市町村が人口減少にいたると予測されており、本市においても人口減少傾向が続いています。

こうした状況のなかで、今後、若者の定住促進やＵ・Ｉ・Ｊターン者への取り組みなどを継続的に行い、定住人口の減少緩和を進めるだけでなく、交流時代の新たな人口指標の尺度として重要視されている「**交流人口**」※の増加に向け、魅力あるまちづくりを進めていく必要があります。

そして、定住人口に交流人口を加えることにより、宇陀市に住む人だけでなく、宇陀市で学び、働き、訪れるすべての人を「**まちづくり人口**」※と位置づけ、宇陀市のまちづくりに関わるすべての人がお互い支え合いながらやすらぎとにぎわいのあるまちづくりを進めていきます。

新たな人口指標

「まちづくり人口」の目標：43,000人
（定住人口+交流人口）

◎「まちづくり人口」“43,000人”をめざします!

●定住人口→減少緩和　→　約33,000人

・少子高齢対策、定住促進対策など、地域再生をめざした、さまざまな複合施策の実施
・県営工業団地等（大和高原工業団地：計画地）の整備　など

●交流人口→増　加　→　約10,000人（1日当たり昼間人口）

・グリーンツーリズムや農業体験など、自然志向の新たな観光スタイルの確立
・歴史、文化、自然、環境など、さまざまなイベントの開催　など

＋）

→ **平成29年　約43,000人**

●**交流人口の考え方**…学習、仕事、余暇、消費などさまざまな動機でまちを訪れる人口です。この交流人口がまちの活性化の指標となるためには、通勤や消費などの直接的な効果だけではなく、まちのにぎわいを醸成し、さまざまな要因で人々が交流するなど、間接的な波及効果をもたらすことが必要です。

●**まちづくり人口の考え方**…「まちづくり人口」＝「定住人口」＋「交流人口」

４．都市構造の概念

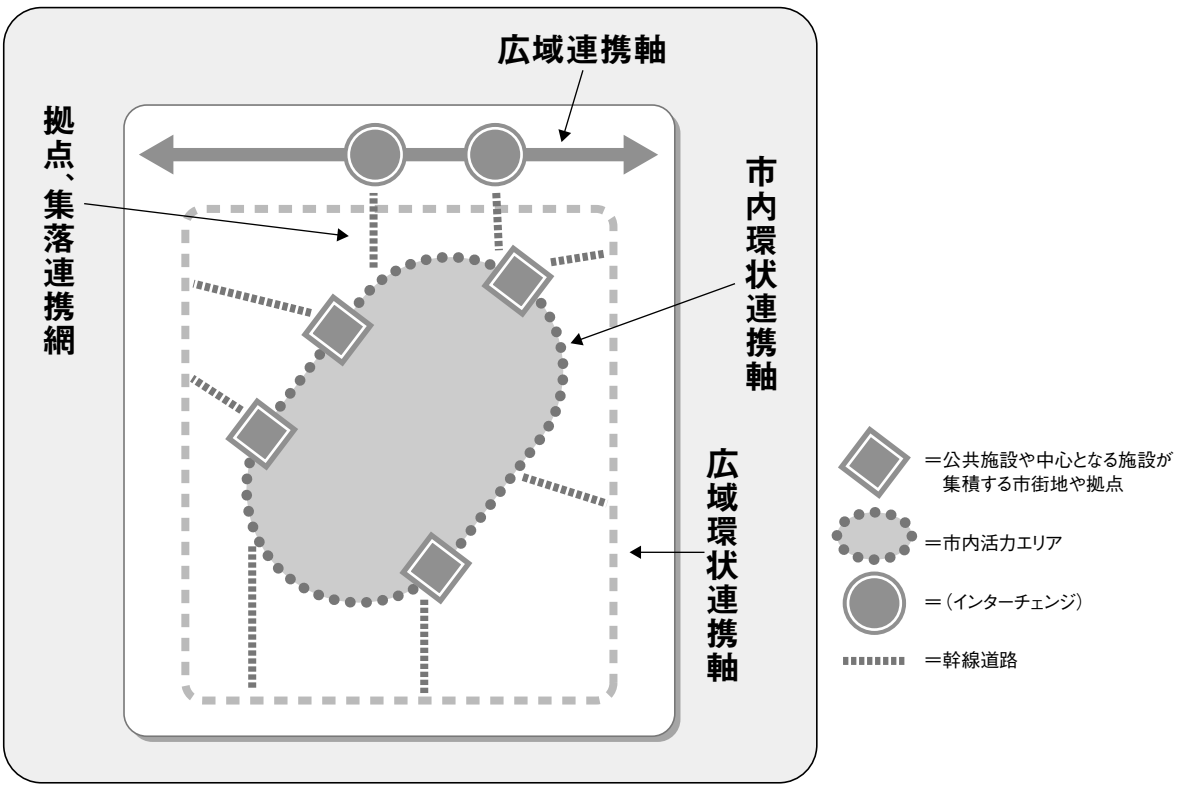
（１）将来都市構造の概念提示

本市は総面積247.62km²と広大な市域を有し、都市構造上の核となる駅前や中心となる施設が集積する市街地・拠点が各地域に分散しているという都市構造上の特徴があります。市民が宇陀市としての一体感を感じることができ、市内に分散する公共施設や市街地・拠点との連携を図るためにも、各市街地・拠点をリング（環状）で結ぶとともに、地域連携の強化や市民生活の利便性向上を図るため市内各集落を各拠点とネット（網状）で結ぶ概念的な都市構造の設定を行います。

また、急速な高齢化の進展や人口減少社会を見据えた場合、今後、市内点在集落における行政サービスの低下や集落の孤立が懸念されます。そこで、市街地や拠点をネット（網状）で結ぶことに加え、各地域の中心地及び市街地周辺へのアクセスを向上させながら、コンパクトなまちの形成を図ることとします。

そのため、市街地や拠点においては、「福祉」や「健康」などの観点から、市民生活に身近な商店街や公共施設、快適な住環境が整備されたまちづくりを進めます。

■ 各市街地・拠点をリング（環状）とネット（網状）で結ぶ概念的な都市構造



（2）ゾーン別の整備方針

地形条件や土地利用の現況など、また、観光・産業・人の集積をふまえて、各地域の特性を活かした以下のゾーニングを行い、それぞれの整備方針を示します。

■活力創造・連携ゾーン

市内の公共施設や商工業地等の都市機能の集積を図り、特色ある自然・歴史・文化・産業等の地域資源を積極的に活かして連携しながら「学ぶ、働く、遊ぶ、憩う、食べる、創る」など、定住促進活動、創造・交流活動、観光・産業振興活動、環境保全活動等が活発に行われるような、回遊性・滞留性と活力あふれるゾーンの形成をめざします。また、本市の持つ利便性と低利用地を活用し、定住人口の確保を図るため、雇用の場となる工場誘致や団地開発が可能となる土地利用ゾーンとします。

■地域拠点ゾーン

各地域の均衡ある発展をめざし、市民サービスや市民の交流の場の確保を図ります。また、地区拠点相互の役割分担や特性を活かしつつ、総合的な利便性の確保と、にぎわいを創出する都市機能の整備を進めます。

●市街地エリア

宅地の集積が高い市街地を形成しているエリアであり、計画的な都市基盤の整備や都市的な機能の整備をめざすとともに、快適で利便性のある居住環境の維持を図ります。

●市街地活性エリア

本市の中核地として、市内で最も求心力の高いエリアに位置づけ、宇陀市の玄関口としてのコンパクト機能を活かした市街地整備を図ります。また、近鉄榛原駅周辺を商業振興の中心として位置づけるとともに、あらゆる面から市民生活の充実を図ります。

●工場誘致エリア

本市の北東部の低利用地は、名阪自動車道にも近く、大阪・名古屋への交通アクセスの地の利を活かし、定住促進のための就労の場と税収確保のための工場・企業誘致を積極的に進めます。

●森林環境エリア

豊富な森林資源・観光資源に恵まれており、今後も自然環境を大切にしたまちづくりを行い、農林業の活性化や自然派志向による定住促進、グリーンツーリズム（農山村での滞在型余暇活動）による交流促進を図ります。

● **田園共生エリア**

宇陀盆地に広がる平野部を中心とした高原地域及び中山間地域からなる農地や既存集落の広がるエリアであり、農業の振興を図るとともに、農業資源を活かした交流・体験の場づくりや、定住促進を図れる田園風景と調和したうるおいある居住環境をめざします。

● **自然交流エリア**

室生・赤目・青山国定公園の一部を形成する自然交流エリアについては、豊かな自然のなかで、やすらぎ・ふれあい・体験・環境学習等が図れるような、魅力あふれる取り組みの推進をめざします。

第３節　基本目標と方向性

１．自然と共生した快適に暮らせるまち

地球温暖化やエネルギーの大量消費など、自然を取り巻く環境問題は本市でも例外ではありません。今後、本市の豊かな自然や美しい田園風景と調和したまちづくりを進めるため、循環型社会への取り組み運動など、環境保護を地域づくりに活かしながら、自然環境と共生した、持続可能な快適なまちをめざします。

１．自然環境の保全と活用
２．生活環境の整備
３．循環型社会の構築
４．持続可能な調和の取れたまち
５．公園・緑地の整備

２．いきいきと健やかな安らぎのあるまち

乳児から高齢者まで、地域住民が生涯にわたり、住み慣れた地域で、いきいきと健康に生活できるよう、保健・医療・福祉が連携し、健康づくりを行うとともに、医療環境の整備、母子保健施策、高齢者施策、障害者施策等の充実を図ります。

また、市民一人ひとりが自らの能力を発揮しながら互いに助け合い、支え合う地域福祉の充実を図るとともに、「自助」「共助」「公助」の理念をまちに浸透させ、地域の特性を活かしながら、協働によるまちづくりを推進します。

１．健康づくりの推進
２．地域医療体制の充実
３．高齢者が安心して暮らせるまち
４．障害のある人がいきいきと暮らせるまち
５．子育て支援が充実したまち
６．心豊かな地域福祉の充実

３．安全・安心でうるおいのある定住のまち

住宅をはじめとする住環境、道路交通網、上下水道や情報通信基盤などの都市基盤の整備とともに、防犯・防災の充実に努め、安全・安心なまちづくりを行います。

また、空洞化が進む中心市街地の活性化に取り組むとともに、Ｕ・Ｉ・Ｊターンに対応できる定住・交流促進対策や雇用環境を創出し、自然、文化、産業が共生する都市づくりを推進します。

１．定住拠点の構築
２．道路交通網の整備
３．公共交通機関の充実
４．上下水道の整備
５．安全・安心な暮らしの実現
６．情報通信基盤の整備

４．一人ひとりが輝き個性・創造を育むまち

地域力の向上も、市民一人ひとりの豊かな人間性が基礎となって成立します。すべての人が心豊かに生きがいのある生活が送れるよう、地域の特性を活かした教育と文化振興を進めます。

また、互いの人権を大切にしながら、いじめ問題などがない、男性も女性も誰もが自分らしく学び、働き、活動できる地域づくりを進めるとともに、本市に住む誰もが地域で学習活動やスポーツ・レクリエーション活動などに取り組める文化的環境の整備に努めます。

１．誰もが尊重される共生のまちづくり
２．男女共同参画社会の実現
３．教育環境の整備・充実
４．生涯学習の充実
５．スポーツ・レクリエーションの充実

５．地域資源を活かした産業・交流振興のまち

本市の豊かな自然資源を活かしながら、農林業や商工業の振興、歴史や文化遺産を活かした集客交流のある観光の創出を行うなど、豊かで活力と個性がある地域産業の構築を図ります。

また、本市の恵まれた自然資源や歴史・文化資源が地域の活性化に結びつくよう、保全と活用の多様性を検討しながら、ＰＲ活動を推進し、持続可能な地域経済の発展に努めます。

１．農林業の活性化
２．商工業の活性化
３．歴史・文化資源の保全と活用
４．観光の振興
５．交流施策の充実

６．みんなで創る協働と参画のまち

地方分権の進展や行政需要が複雑・多様化するなか、市民ニーズを的確に把握することが重要となっています。行財政の健全化が緊急課題とされているなか、行政だけがまちづくりを行うのではなく、市民、ボランティア団体などとの連携により、本市に住むみんなで自分たちのまちについて考え、まちづくりに取り組む体制を整備し、住民自治の確立をめざした、新しいまちづくりを推進します。

１．市民と行政の協働のまちづくり
２．行政サービスの向上
３．地域力の再生
４．行財政改革の推進
５．広域行政の推進

第４節　宇陀市総合計画の施策体系

基本理念

1. 持続可能な環境保全のまちづくり
2. 新しい時代の協働のまちづくり
3. 地域力（宇陀力）による「安全・安心」なまちづくり
4. 歴史や文化を活かしたまちづくり

将来像

～協働と交流で築く　ぬくもりの家～

『自然と共生し、歴史・文化が育む ふれあいと活力あるまち 宇陀市』

政　策	施　策
1. 自然と共生した快適に暮らせるまち	1. 自然環境の保全と活用 2. 生活環境の整備 3. 循環型社会の構築 4. 持続可能な調和の取れたまち 5. 公園・緑地の整備
2. いきいきと健やかな安らぎのあるまち	1. 健康づくりの推進 2. 地域医療体制の充実 3. 高齢者が安心して暮らせるまち 4. 障害のある人がいきいきと暮らせるまち 5. 子育て支援が充実したまち 6. 心豊かな地域福祉の充実
3. 安全・安心でうるおいのある定住のまち	1. 定住拠点の構築 2. 道路交通網の整備 3. 公共交通機関の充実 4. 上下水道の整備 5. 安全・安心な暮らしの実現 6. 情報通信基盤の整備
4. 一人ひとりが輝き個性・創造を育むまち	1. 誰もが尊重される共生のまちづくり 2. 男女共同参画社会の実現 3. 教育環境の整備・充実 4. 生涯学習の充実 5. スポーツ・レクリエーションの充実
5. 地域資源を活かした産業・交流振興のまち	1. 農林業の活性化 2. 商工業の活性化 3. 歴史・文化資源の保全と活用 4. 観光の振興 5. 交流施策の充実
6. みんなで創る協働と参画のまち	1. 市民と行政の協働のまちづくり 2. 行政サービスの向上 3. 地域力の再生 4. 行財政改革の推進 5. 広域行政の推進